

議員団ニュース

井出 節夫 電話 八二―二七三六
小林 松子 電話 五四―二二一五
内藤 祐子 電話 六二―八七五一

日本共産党佐久市議団発行
二〇一一年四月 号外
佐久市中込滑津
電話 六二―七三―四

藤岡県議の誕生・戦後佐久地区で初の共産党議席 市民のみなさんのご支援に心より感謝致します

四月十日投票の長野県議会議員選挙で、日本共産党の藤岡義英氏(39歳)が第2位で当選しました。佐久地域に於ける日本共産党県議の誕生は、戦後初めてのことです。定数四人の新県議は六期目の寺島義幸氏(57歳)三期目の今井正子氏(61歳)と新人の自民党公認の桃井進氏(51歳)です。昨年八月の県議補選で当選した県民クラブ・公明の清水秀三郎氏は落選しました。

藤岡新県議は、四年前の県議選9997票から2401票伸ばしての当選です。昨年の県議補選も含め三度目の挑戦での快挙でした。

東日本大震災の翌日三月二日からジャスコ前で被災者救援のカンパ活動を続け、三千人以上の方から約180万円の寄付を戴きました。その寄付金や救援物資を栄村、福島県に届けました。選挙準備期間にもかかわらず、先ず被災者救援をという姿勢には、多くの共感が寄せられました。

共産党佐久市議団は、藤岡候補の遊説カーに交代で同乗し、藤岡支持を訴えました。また、各市議の後援会員に「指示の輪を広げて」と訴えました。

佐久市の得票はトップ(当選者の中で)

当選者の得票は寺島氏が県議会議長の貫禄でトップですが、佐久市内では藤岡氏が9635票を獲得し、当選者の中では自民党の桃井氏を抜いてトップです。桃井氏は公

県議選当選者の得票		11, 4, 10
	得票総数	内佐久市分
藤岡義英	12,398	9,635
寺島義幸	14,739	8,400
今井正子	12,196	6,537
桃井 進	11,345	9,129

明党の推薦も受けていますから、藤岡氏の奮闘が光ります。二二日付信毎の出口調査の分析では、無党派層の二五・六%が藤岡氏に投票したとのこと。日常的な活動が評価された結果が当選に結びつきました。

柳田市長を表敬訪問し懇談

当選翌日の四月一二日、三人の共産党佐久市議と柳田市長を表敬訪問しました。柳田市長は県議時代の経験や石坂共産党県議団長とのエピソード等を紹介し、藤岡新県議への当選のお祝いを述べられました。新副



市長の小池氏や小林総務部長を始め、庁内の全部署にいきつに回りました。大勢の市職員から当選のお祝いや激励の言葉を掛けていただきました。(写真は、左から井出節夫市議、市長、藤岡新県議、内藤祐子市議、小林松子市議)

総合文化会館建設予定地の利用 市民交流広場でよいのでしょうか

佐久市は五月の臨時議会で総合文化会館建設予定地の後利用を「市民交流ひろば」とする補正予算を提出する方向です。土地代金 33億1000万円、総事業費5億4000万円合計で38億5000万円の公園です。

昨年の住民投票の際の市側の説明では、文化会館を建設しない場合は、合併特例債は、①一括返還だが償還方法は県・国と相談する。②減債基金の活用で対応は可能としてきました。(市広報Q&A)・・・多くの市民は公園とは思っていなかった。

「合併特例債事業は、事業を厳選し、必要なものに使う」というのがこれまでの市側の答弁でした。総合計画・実施計画にも無い「公園建設」を急ぐことなく、建設予定地の後利用は市民的論議をすべきではないでしょうか。

無料法律相談は毎月第三金曜日です。お気軽に。